

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第6週（2月5日～2月11日）

## ★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

**高知県全域で警報値である 30.00 を超えています。**

定点医療機関当たりの報告は第5週の66.19から、第6週は67.67と横ばいですが、過去10年間と比較しても最も高い値となり、引き続き警報値を超えています。県全域から報告があり、須崎で増加し、中央西、幡多、須崎、高知市、中央東で警報値を、安芸で注意報値を超えています。

また、学校等における集団発生の報告でも休校、学年閉鎖、学級閉鎖の報告が続いていますので引き続き注意して下さい。

インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザA型が737件（23.1%）、インフルエンザB型が2451件（76.9%）となっています。

病原体検出情報では、第6週に須崎から搬入された検体からInfluenza virus AH3 NTが1例、高知市から搬入された検体からInfluenza virus B/Yamagataが1例検出されています。異なる型の流行がみられるので、複数回感染することも考えられます。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2017年第52～2018年4週）ではB（山形系統）の検出割合が最も多く44.8%、次いでAH1pdm09が28.3%、AH3が23.3%、B（ビクトリア系統）が2.4%、B（系統不明）が1.2%の順でした。

## 学校等における集団発生

※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
学級閉鎖	第6週	1	4	18	1		4	28
	累計	8	12	75	3	2	11	111
学年閉鎖	第6週	6	3	4	7	3	3	26
	累計	14	7	18	21	20	13	93
休校	第6週					1		1
	累計					2	2	4

## 高知県の保健所別の定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況（2018年第6週）

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前		6週前		7週前	
	第6週		第5週		第4週		第3週		第2週		第1週		第52週		第51週	
	定当	状況	定当	状況												
<b>高知県全域</b>	<b>67.67</b>	△	<b>66.19</b>	△	<b>53.65</b>	△	<b>64.08</b>	△	<b>31.73</b>	△	<b>18.79</b>	○	<b>11.81</b>	○	<b>4.38</b>	-
安芸	26.00	○	26.50	○	26.75	○	31.50	△	16.00	○	6.00	-	3.00	○	0.75	-
中央東	56.36	△	54.73	△	39.45	△	54.09	△	25.73	○	8.91	-	6.00	-	2.55	-
高知市	69.31	△	71.44	△	63.81	△	73.38	△	36.50	△	21.69	○	15.81	○	5.88	-
中央西	86.40	△	73.80	△	73.20	△	88.00	△	37.80	△	17.40	○	13.00	○	5.60	-
須崎	74.00	△	61.00	△	48.75	△	65.00	△	40.25	△	15.50	○	9.75	-	5.50	-
幡多	85.88	△	89.13	△	56.50	△	60.13	△	30.25	△	35.50	△	16.50	○	4.38	-

注意報値：○（10以上30未満） 警報値：△（30以上）

## <インフルエンザにかからないために>

- 1) 咳エチケット：咳やくしゃみを浴びないようにするためにマスクをしましょう。
- 2) 外出後の手洗い：インフルエンザウイルスを流水・石けんで除去しましょう。
- 3) 人混みや繁華街への外出を控える：特に高齢の方や基礎疾患のある方は注意しましょう。
- 4) 休養と栄養摂取：体の抵抗力を高めましょう。

## <かかったらどうする>

- 1) 医療機関を受診：体調不良の時には、早めに医療機関を受診しましょう。
- 2) 休養と睡眠（水分補給）：安静にし、休養をとりましょう。
- 3) 外出をひかえる：無理して職場や学校に行かないようにしましょう。
- 4) 咳エチケット：周りの方へうつさないように、マスクをしましょう。

※小児、未成年者では、インフルエンザの罹患により、急に走り出す、部屋から飛びだそうとする、ウロウロ歩き回る等の異常行動を起こすおそれがあります。自宅療養する場合、インフルエンザと診断され治療が開始された後少なくとも2日間は小児・未成年者が一人にならないなどの配慮が必要です。

厚生労働省 インフルエンザ（総合ページ）

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuleza/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuleza/index.html)

## ○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第5週の3.07から第6週では2.87と横ばいです。県全域から報告があり、幡多で減少していますが、中央西で急増、安芸、須崎で増加しています。

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルス6例、細菌の病原性大腸菌を原因とする胃腸炎の報告2例の報告があります。

また、学校等欠席者・感染症情報システム※でも34例の報告があることから引き続き注意が必要です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、1年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。嘔吐、下痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

**<予防方法>** 感染予防の基本は手洗いです

人への感染経路は、主に経口（食品、糞便）です。食品を除けば大半が手に付着したウイルスが口に入っ

て感染します。感染防止策は「手洗い」が基本ですので帰宅時・調理前・食事前・トイレの後に石けんを使ってよく手を洗いましょう。また、感染した人の便や吐物には、大量のウイルスが含まれていますので直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用

方法を確認した上で使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処理しましょう。）また、調理をする場合は、十分加熱しましょう。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関するQ&A」

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html)

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

## ○百日咳に気を付けて！

第6週に百日咳の発生届けが須崎福祉保健所管内から10例、高知市保健所管内から1例ありました。報告が続いており、2018年にはいって合計29例の報告となっています。

百日咳は、①通常5～10日（最大3週間程度）の潜伏期を経て、通常の風邪症状から次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。（カタル期）②短い咳が連続的に起こり（スタッカート）続いて、息を吸う時に笛の音のようなヒューという音がでます（ウープ）。この様な咳嗽発作が繰り返すことをレプリーゼといい、しばしば嘔吐を伴います（痙咳期）。③激しい発作は次第に減衰し、2～3週間で認められなくなりますが、その後の時折発作性の咳が出て、全経過約2～3ヶ月で回復します（回復期）。

咳やくしゃみなどによる飛沫感染や接触感染により感染し、その感染力は強く、患者や感染しても症状が軽いため百日咳にかかったと気づかない大人から、重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児へ感染することも考えられることから注意して下さい。

**<予防方法>** 飛沫感染予防には、手洗い、咳エチケットです

外出時にはマスクを着用し、人混みはなるべくさげ、帰宅時には、手洗いを励行しましょう。また、定期予防接種があります。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

※百日咳は平成30年1月1日より全数把握疾患になったことから、「★全数把握感染症」に掲載しています。

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

☆屋外活動の際にはダニに注意！

★日本紅斑熱や SFTS に注意しましょう

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは野山、草地、畑、河川敷などに広く生息しています。屋外でキャンプ、ハイキングなどのレジャーや農作業をする場合には次のことに注意しましょう。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

また、このたび発熱・衰弱等に加え血小板減少等の所見が見られた飼育ネコ及び飼育イヌの血液・ふん便から SFTS ウイルスが検出された事例並びに、体調不良のネコからの咬傷歴があるヒトが SFTS を発症し死亡した事例が確認されました。これらの事例は稀な事例ではありますが、イヌやネコの体液等からヒトが感染することも否定できないので、体調不良の動物に接触した後、発熱等の症状が出た時には医療機関を受診して下さい。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html)
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット  
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用 医薬品	約6時間	12歳未満は 使用禁止	
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～6時間		
	高濃度製剤 15%	防除用 医薬品	6～8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋  
※市販の虫除け剤（忌避剤）は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

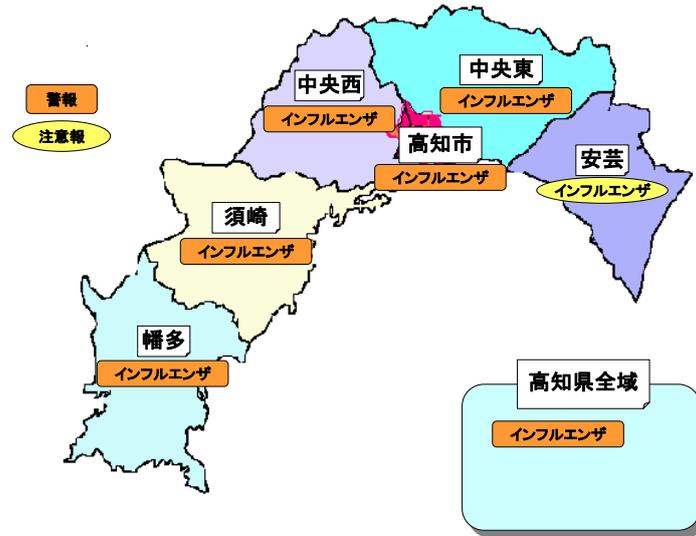
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑：急増    ↗：増加    →：横ばい    ↘：減少    ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	→	67. 67	須崎で増加し、県全域、中央西、幡多、須崎、高知市、中央東で警報値を、安芸で注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	→	2. 87	幡多で減少していますが、中央西で急増、安芸、須崎で増加しています。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1. 87	安芸、中央西で減少していますが、須崎、中央東で急増、幡多で増加しています。
RS ウイルス感染症	↘	0. 40	中央東で急減、県全域、高知市で減少していますが、幡多で急増しています。
手足口病	↗	0. 37	幡多、中央西で急減していますが、安芸、中央東で急増、県全域、高知市で増加しています。

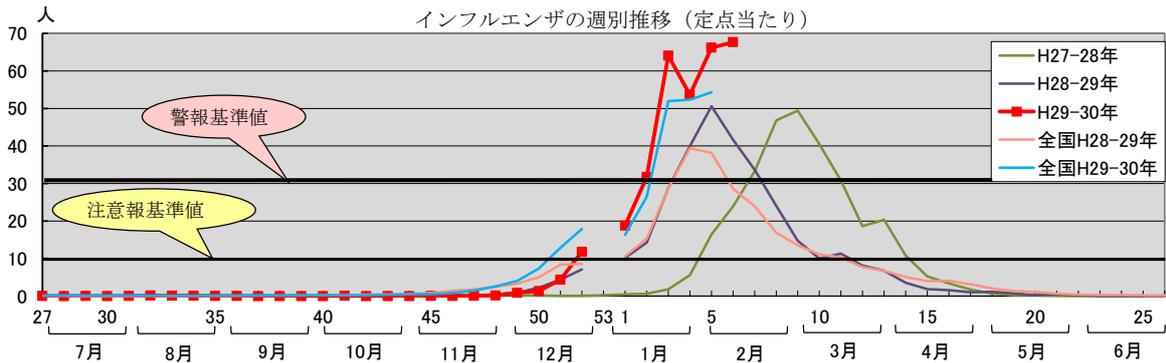
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

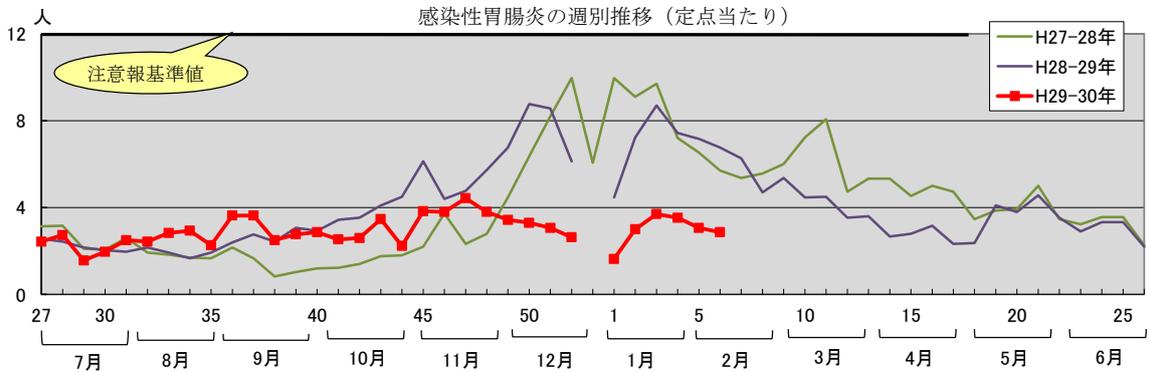
○インフルエンザ 第6週：67.67（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 67.67（前週：66.19）と警報値を超えています。須崎 74.00（前週：61.00）で増加し、中央西 86.40（前週：73.80）幡多 85.88（前週：89.13）須崎、高知市 69.31（前週：71.44）中央東 56.36（前週：54.73）で警報値を、安芸 26.00（前週：26.50）で注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎 第6週：2.87（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.87（前週：3.07）と横ばいです。幡多 2.20（前週：4.00）で減少していますが、中央西 2.67（前週：1.33）で急増、安芸 5.00（前週：3.00）須崎 3.00（前週：2.00）で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。そのため、H28-H29年とH29-H30年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
6	インフルエンザ		59	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
6	インフルエンザ	39°C,咳嗽,上気道炎,	1	男	高知市	Influenza virus B/Yamagata

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所	
2類	結 核	1	10	70歳代 女	高知市	
		1		90歳代 女		
		1		90歳代 女	幡 多	
5類	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	70歳代 女	中央東	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	3	60歳代 男	高知市	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	7	50歳代 女		
	ジアルジア症	1	1	30歳代 男		
	播種性クリプトコックス症	1	3	30歳代 女	中央東	
	梅 毒	1	4	40歳代 男	高知市	
	百日咳		1	29	40歳代 女	高知市
			1		0~4歳 男	
			3		5~9歳 男 3人	須 崎
			3		5~9歳 女 3人	
3			10~14歳 女 3人			

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
安 芸	田野病院小児科	hMP 気管支炎 1例 (2歳女)
中央東	早明浦病院小児科	アデノウイルス感染性胃腸炎 1例 (2歳男) インフルエンザと溶連菌感染症同時感染 1例 (12歳男) インフルエンザ B型 50例、A型 1例
	高知大学医学部付属病院小児科	アデノウイルス扁桃炎 (複雑型熱性けいれん) 1例 (1歳男)
	田村こどもクリニック	1月上旬にインフルエンザA型、2月にインフルエンザB型1例 (6歳) 1月中旬にインフルエンザA型、2月にインフルエンザB型1例 (4歳) 1月中旬にインフルエンザB型、2月にインフルエンザA型1例 (7歳)
	野市中央病院小児科	インフルエンザ 14例 (ワクチン接種済み 4人、ワクチン未接種 10人)
高知市	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 1例 (1ヶ月女) 病原性大腸菌 2例 (0ヶ月男、1ヶ月男) インフルエンザ 17例 (A型 2例、B型 15例)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス扁桃炎 2例 (1歳2人)
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザ B型が A型の約 5倍位多くみられた インフルエンザ A型 24例、B型 60例 (ワクチン接種済み 12例) インフルエンザと溶連菌感染症合併 2例 (3歳男、6歳女) 溶連菌感染症 7例 手足口病 2例
	細木病院小児科	ノロウイルス 2例 (10ヶ月女、3歳女)
	ふないキッズクリニック	ノロウイルスによる胃腸炎 1例 (2歳女)
中央西	くぼたこどもクリニック	アデノウイルス感染症 2例 (1歳女 2人) RSV 感染症 1例 (4ヶ月男：須崎市) 水痘 2例 (6ヶ月女、6歳男：ともにいの町) インフル B35 例 (内 8歳女、9歳男は須崎市)
	石黒小児科	インフルエンザ A型 31例、B型 142例 インフルエンザ A+B型 1例 (1歳女) インフルエンザ B型が多い状態が続いています
須 崎	もりはた小児科	感染性胃腸炎 (ノロ) 3例 インフルエンザ B型中心に流行中 (A型 27例、B型 116例) 百日咳 4例 (Lamp 法陽性)
幡 多	幡多けんみん病院小児科	hMPV 陽性 9例 (1歳男 4人、1歳女 3人、2歳男、3歳女)
	さたけ小児科	hMPV 2例 (7ヶ月男、8ヶ月女) インフルエンザ 213例 (A型 36例、B型 177例)

## ★全国情報

### 第4号（1月22日～1月28日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核304例

3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症8例、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎4例、A型肝炎3例、Q熱1例、つつが虫病3例、デング熱1例、マラリア1例、  
レジオネラ症15例

5類感染症：アメーバ赤痢9例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症24例、急性脳炎13例、  
クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症19例  
後天性免疫不全症候群15例、ジアルジア症2例、侵襲性インフルエンザ菌感染症9例  
侵襲性肺炎球菌感染症48例、水痘（入院例に限る）4例、梅毒73例  
播種性クリプトコックス症2例、破傷風1例、百日咳40例

報告遅れ：E型肝炎1例、レジオネラ症5例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症12例

急性脳炎18例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症7例、水痘（入院例に限る）4例、梅毒37例

播種性クリプトコックス症3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳16例、風しん1例

---

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第6週 平成30年2月5日(月)～平成30年2月11日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第6週						計	前週	全国(5週)	高知県(6週末累計)		全国(5週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H30/1/1～H30/2/11	H30/1/1～H30/2/4		
インフルエンザ	インフルエンザ		104	620	1,109	432	296	687	3,248 ( 67.67)	3,177 ( 66.19)	268,811 ( 54.33)	14,501 ( 302.10)	997,096 ( 201.84)		
小児科	咽頭結核熱			1	6			1	8 ( 0.27)	3 ( 0.10)	984 ( 0.31)	23 ( 0.77)	4,914 ( 1.56)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	3	37	2	2	8	56 ( 1.87)	50 ( 1.67)	8,245 ( 2.61)	268 ( 8.93)	34,012 ( 10.79)		
	感染性胃腸炎		10	21	30	8	6	11	86 ( 2.87)	92 ( 3.07)	16,159 ( 5.11)	534 ( 17.80)	79,139 ( 25.10)		
	水痘				2	2			4 ( 0.13)	10 ( 0.33)	796 ( 0.25)	38 ( 1.27)	5,253 ( 1.67)		
	手足口病		3	2	5			1	11 ( 0.37)	7 ( 0.23)	564 ( 0.18)	75 ( 2.50)	3,097 ( 0.98)		
	伝染性紅斑			1					1 ( 0.03)	1 ( 0.03)	223 ( 0.07)	7 ( 0.23)	1,198 ( 0.38)		
	突発性発疹				8			1	10 ( 0.33)	9 ( 0.30)	964 ( 0.30)	48 ( 1.60)	4,878 ( 1.55)		
	ヘルパンギーナ					1			1 ( 0.03)	( 0.00)	53 ( 0.02)	2 ( 0.07)	294 ( 0.09)		
	流行性耳下腺炎				1				1 ( 0.03)	( 0.00)	463 ( 0.15)	2 ( 0.07)	2,677 ( 0.85)		
	RSウイルス感染症				7	2			3	12 ( 0.40)	16 ( 0.53)	1,420 ( 0.45)	75 ( 2.50)	7,275 ( 2.31)	
眼科	急性出血性結膜炎								( 0.00)	( 0.00)	11 ( 0.02)	( 0.00)	35 ( 0.05)		
	流行性角結膜炎								( 0.00)	1 ( 0.33)	449 ( 0.64)	4 ( 1.33)	2,350 ( 3.37)		
基幹	細菌性髄膜炎				1				1 ( 0.13)	( 0.00)	14 ( 0.03)	1 ( 0.13)	46 ( 0.10)		
	無菌性髄膜炎				1				1 ( 0.13)	( 0.00)	6 ( 0.01)	1 ( 0.13)	52 ( 0.11)		
	マイコプラズマ肺炎				2			1	3 ( 0.38)	( 0.00)	71 ( 0.15)	10 ( 1.25)	511 ( 1.07)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								( )	( 0.00)	5 ( 0.01)	3 ( 0.38)	20 ( 0.04)		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)								1 ( 0.13)	1 ( 0.13)	38 ( 0.08)	2 ( 0.25)	133 ( 0.28)		
	計(小児科定点当たり人数)		121 ( 34.50)	649 ( 60.36)	1,209 ( 78.04)	447 ( 91.41)	306 ( 79.00)	712 ( 90.68)	3,444 ( 74.00)			299,276	15,594 ( 337.84)	1,142,980	
前週(小児科定点当たり人数)		125 ( 36.00)	634 ( 59.29)	1,234 ( 79.52)	383 ( 78.45)	249 ( 63.50)	742 ( 94.93)		3,367 ( 72.45)						

注 ( )は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第6週						計	前週	全国(5週)	高知県(6週末累計)		全国(5週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H30/1/1～H30/2/11	H30/1/1～H30/2/4		
インフルエンザ	インフルエンザ		26.00	56.36	69.31	86.40	74.00	85.88	67.67	66.19	54.33	302.10	201.84		
小児科	咽頭結核熱			0.14	0.55			0.50	0.27	0.10	0.31	0.77	1.56		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.00	0.43	3.36	0.67	1.00	1.60	1.87	1.67	2.61	8.93	10.79		
	感染性胃腸炎		5.00	3.00	2.73	2.67	3.00	2.20	2.87	3.07	5.11	17.80	25.10		
	水痘				0.18	0.67			0.13	0.33	0.25	1.27	1.67		
	手足口病		1.50	0.29	0.45				0.37	0.23	0.18	2.50	0.98		
	伝染性紅斑			0.14					0.03	0.03	0.07	0.23	0.38		
	突発性発疹				0.73			0.50	0.33	0.30	0.30	1.60	1.55		
	ヘルパンギーナ					0.33			0.03	0.00	0.02	0.07	0.09		
	流行性耳下腺炎				0.09				0.03	0.00	0.15	0.07	0.85		
	RSウイルス感染症				0.64	0.67			0.40	0.53	0.45	2.50	2.31		
眼科	急性出血性結膜炎								0.00	0.00	0.02	0.00	0.05		
	流行性角結膜炎								0.00	0.33	0.64	1.33	3.37		
基幹	細菌性髄膜炎				0.20				0.13	0.00	0.03	0.13	0.10		
	無菌性髄膜炎				0.20				0.13	0.00	0.01	0.13	0.11		
	マイコプラズマ肺炎				0.40			1.00	0.38	0.00	0.15	1.25	1.07		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								0.00	0.00	0.01	0.38	0.04		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			1.00					0.13	0.13	0.08	0.25	0.28		
	計(小児科定点当たり人数)		34.50	60.36	78.04	91.41	79.00	90.68	74.00			337.84			
前週(小児科定点当たり人数)		36.00	59.29	79.52	78.45	63.50	94.93		72.45						

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）  
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）  
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2018年2月13日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。